

土地利用上の工夫

技術概要

コミュニティ形成、交通需要削減、自然との共生等のため、以下のような土地利用上の工夫を行う。

- ・ 都市の身近な自然を保全・利活用するための都市内あるいは自然保全・利活用地域の指定
- ・ 適性規模の学校の分散配置
- ・ 学校の近隣コミュニティとの隣接化
- ・ 職住近接を図った土地利用
- ・ 公共交通機関ターミナルと商業施設等の隣接配置等

新都市での導入効果について

自然保全、交通に伴う環境負荷削減等の効果の他、コミュニティ形成により地域住民の環境への意識が高まるといった間接効果も期待される。

導入における課題（ 対応策 ）

住民のライフスタイルや他の導入技術との整合性に配慮する必要。

環境面、ライフスタイル面等、各方面から多面的総合的に検討した都市計画マスタープランを策定する。

その他（ 導入状況・技術開発等動向・将来見込み等 ）

環境に配慮した土地利用上の工夫としては、これまで自然保全に重点をおいたものが中心であった。例えば、イギリスのグリーンベルトのように、自然保全区域を設けそこでの土地利用を凍結したり、制限を加えたりする対策がある。

新都市では、このような自然保全の視点に加え、都市住民の日常活動から発生する環境負荷を抑制するという観点からも土地利用上の工夫を行うことが重要である。

注：各種資料により(株)エックス都市研究所作成